

報告集発刊にあたって

村井 吉敬

じやなかしやばへの道

「PPP21八九国際民衆行事」は、七月二十九日の山形県置賜での「百姓国際交流会」で幕を開けました。そして、八月二五―二七日福岡でのアジアン・フェスティバルで幕を閉じました。日本列島をまさに縦断する形で、北は北海道から、南は沖縄にいたる各地で、さまざまな国際民衆会議やイベントが繰り広げられました。その諸行事日程と参加者数は下記の通りです。

①百姓国際交流会

(山形県置賜 七・二九―八・二)

二五〇〇人

②アジアからの出稼ぎ労働者問題を考える
(鳥取 七・二九)

③食と農といのちの広場

(新潟 八・三一―八・七)

一一五〇人

④稲作経済圏フォーラム八九

(岩手 八・一〇―八・一一)

五〇〇人

⑤世界先住民族会議

(札幌・二風谷・釧路 八・七一―八・一四) 一五〇〇人

⑥アジア・日本の労働運動の変革をめざして

(東京・大阪 八・七一―八・一四) 三二〇〇人

⑦国際化の中の管理と人権

(愛知 八・四―八・六) 六〇〇人

⑧ アジア女性フォーラム (横浜 八・一〇一八・一四)	一〇〇〇人
⑨ P P 21山梨文化ワークシヨップ (甲府 八・一三一―一五)	二〇人
⑩ O D A 国際共同調査ワークシヨップ (東京 八・一四一八・一五)	一五〇人
⑪ 八・一五東京共同行動 (東京 八・一五)	一〇〇〇人
⑫ 神奈川県国際シンポジウム (横浜 八・一七一八・一九)	八〇〇人
⑬ P P 21文化キャラバン (全国、バンガラー・ゲンス・シアター、ベタ・アユ ス、カラワン、チャンバワンバ)	五〇〇〇人
⑭ アジア・太平洋・琉球弧住民集会 (沖縄 八・一七一八・一九)	一五〇〇人
⑮ アジア・太平洋消費者会議 (埼玉 八・一八一八・二四)	六〇〇人
⑯ 発展のためのアジア文化フォーラム (ARCFO) 総会 (水俣 八・一六一八・一九)	二〇〇人
⑰ P P 21まとめとひろがりの広場 (水俣 八・一九一八・二四)	二一〇〇人
⑱ アジアン・フェスティバル (福岡 八・二五一八・二七)	一〇〇〇〇人
合計	一一一三七〇人

八月二十七日夜、アジアン・フェスティバルの特設舞台にスポットがあてられました。P P 21八九国際民衆行事のフィナーレです。全国コーディネーターの一人の武藤が興奮気味に、力強く挨拶しました。

「P P 21は素晴らしい出会いの場でした。一〇万人からの人びとが結集しました。何かが大きく動きつつあります。『希望の連合』に向けて本当に歩み出せる思いを強くしました。民衆の力を確認できました！」

スリランカの男性、タイの農民の女性が挨拶しました。P P 21はここで終わるのではなく、これからまさに始まることを確認されました。桐谷夏子と砂田明によって「水俣宣言：希望の連合」が、時に悲しく、時に怒りを込めつつ、また、最後は力強く高らかに読み上げられました。

「わたしたちはここに宣言する。抑圧されている人びとには、自分たちの生活を左右する決定の実施については、その決定がどこでくだされるにしろ、これを批判し、これに反対し、かつその実施を阻止する天賦の普遍的権利があることを。・・・わたしたちは信じる。長期的には、こうした民衆の越境する政治行動こそが、国家の支配力を掘りくずし、国際資本の権力に対抗し、わたしたちが望む二一世紀を産み出すであろうことを。」

水俣宣言は大きな拍手によって確認されました。八月

一九一二四日の水俣での会議には、一六〇名もの海外参加者があり、会議場、宿舎は火事場どころの騒ぎではありませんでした。「水俣宣言」は、二三日の朝から二四日明け方まで、起草委員会の死にもぐるいの作業のなから産み出されました。泣いたり、喚いたり、怒鳴りあうなかで、「民衆の越境する参加民主主義」の原則が産み出されたのです。熱帯雨林の伐採中止、カウンターG A T T会議開催、O D Aの調査・監視、女性の売買反対、アイヌを先住民として認定することなど、八つの緊急行動計画も提起されました。美しい水俣湾の朝日に、わたしたちは二一世紀への船出を確認しました。

そして三年後の一九九二年に、再びこのような行事を開催しようとの、国際共催者からの提案もありました。一九九二年は、コロンプスによるアメリカ大陸「発見」五〇〇年目にあたり、それを「祝して」スペインのバルセロナでオリンピックが開催されます。この五〇〇年の歴史への根源的問いかけはP P 21八九年国際民衆行事の主要なテーマでした。「征服」と「開発」の歴史を民衆の立場から、とりわけ世界の先住民の置かれてきた歴史・現状から問い直し、そこから社会・世界をつくりかえてゆく、それがP P 21が歩もうとしている道であり「じゃなかしゃば」だと思えます。

民衆のたましい

福岡アジアン・フェスティバルも最後に近づいてきました。実行委員長の安藤栄雄が閉会の挨拶をし、最後に、カナダの先住民エド・バインスティクが祈りました。八月七日―十四日の北海道での世界先住民民族会議以来、「祈り」がP P 21参加者に共有されるようになりました。これまでの諸会議ではあまり経験したことのない「精神性」を「たましい」の問題の重要性が、P P 21諸行事の基調となりました。

北海道各地で行なわれた世界先住民民族会議が終わってから、残念な事故がひとつ起きました。釧路で三月以来P P 21のためにイタオマチブ（アイヌの伝統船）の製作に心血を注いできたウタリアン成田氏（成田得平さんの兄）と、カメラマンの黒田氏（P P 21参加者）が、八月一六日に釧路港防波堤で高波にのまれて亡くなられたことです。この場を借りて、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。しかし、二〇〇年前のアイヌによる、倭人に対する最後の武装蜂起「クナシリ・メナシの蜂起」のたましいを体現したイタオマチブ船は、釧路湿原の沼にいま堂々と浮かんでいます。

さて、舞台には水俣の砂田明さんが登場しました。自ら作詞・作曲したP P 21テーマ・ソング『じゃなかしゃばば！』（こんなんじゃあない世の中を！）が全員によ

って歌われました。「じやなかしゃば」は今や世界の民衆の言葉になりつつあります。「百姓」という言葉もP 21によって、世界の農民の言葉になりつつあります。

タイのチェンマイに居をかまえるフォーク歌手豊田勇造が舞台にでてきました。カラワンもでてきました。ベタのメンバーたちが踊りだします。みんな踊りだしました。P P 21は最後に大フィーバーしました。もう一カ月以上も日本列島各地でP P 21の諸行事に参加し、心身ともにくたくたになっている参加者も燃えて踊っています。熱帯のようにむしむしする福岡アジア・フェスティバルはこうして終了しました。

P P 21はこれから始まる

P P 21八九国際民衆行事のアイデアが直接的に生み出されたのは一九八八年の一月のことでした。八七年のP A R C（アジア太平洋資料センター）の総会で大規模な国際民衆行事の開催が提起され、八八年一月に合宿をしてアイデアを煮つめました。しかしもとを辿れば、一九八三年秋に開催されたP A R C（アジア太平洋資料センター）一〇周年記念行事の国際合宿「アジア太平洋の民衆とともに私たちの未来を切りひらく」だったのかも知れません。その時に採択された「国際連帯マニフェ

スト」にはつぎのようなことが謳われています。

「国家と資本によってつくりあげられた敵対的な関係の中で、私たちはアジアの民衆と出会ってきた。国際交流は、このことを衝撃的に自覚させた。また、この列島の先住民族や在日韓国人・朝鮮人などへの抑圧、差別の歴史に私たちをあらためて差しもどした。・・・私たちは、国際連帯運動への様々なかたちのかわりをつうじて、日本の国のありようをかえなければ、という思いを以前にも増して切実にもつようになっている。私たちは、今日の日本の現状をゆるさない。日本の変革と国際連帯の運動とは、ふたつの別のことがらではない」

国際連帯運動と、日本の変革運動の連携という枠の中でP P 21の構想が生まれてきたことが分かります。それまでの連帯運動は、ともすれば日本国家、資本の加害性を知り、贖罪意識をもつだけにとどまっていた。「それでおまえたちは自分の足元をどう変革してゆくのだ。いまのようでない関わりをつくり出すために、どのような変革のプラン（オルタナティブ）を構想しているのだ」このような問いかけがアジア太平洋の友人たちから、私たちに突きつけられていました。

トータルな変革のプランをアジア太平洋の友人たちとともに構想し、実践しよう、民衆の巨大な力を二一世紀

に向かつて結集してゆこう。こうしてPP21の構想が徐々に固まってゆきました。一九八八年五月に呼びかけ人会議を行ない、九月に第一回全国実行委員会を開催しました(第二回は八九年一月、第三回は五月)。PP21八九国際民衆行事には、日本では一八の実行委員会が組織され、一〇〇を超える団体が参加団体として加わり、四〇〇人を超える方々が個人として参加されました。また、国際共催団体として、ACFOD(発展のためのアジア文化フォーラム)、ARENA(新しいオールタナティブのためのアジア地域交流)IOCU-Asia Pacific(国際消費者団体機構アジア太平洋事務局)、CCA-URM(アジアキリスト教協議会都市農村宣教委員会)、CCA-Youth(同青年部)、NEIP(非核独立太平洋運動)、INODEP-Asia(人民の発展のための全キリスト教統一研究所)など一四団体が加わっています。アジア・太平洋地域の国際民衆活動を行っている主だった組織がすべて加わったといえます。

参加者個人、団体の自主性、自立性を最大限に尊重しつつ、なおかつ「民衆のめざす二一世紀」を大胆に描き、共に実践してゆこうとのこのPP21を、本当に実現できるのだろうか。お金は大丈夫なのだろうか。東京の事務局も、各地の事務局も、かつてこれほど大規模で多様な民衆の会議、イベントをやった経験はまったくありませんでした。つぎつぎに難問を抱え、しかも事務的にこなさねばならないことが山のようにありました。七月にも

なると、東京事務局は電話、フアクシミリ、人の出入りで、皆ほとんど死ぬのではないかと思っただけです。もちろん諸行事が始まってからもこの状態は続きました。

しかし、「PP21八九国際民衆行事」は、ともかくも何とか無事に終わることが出来ました。ひとえに皆様の暖かいご支援、ご協力の賜物だと思えます。本当にありがとうございました。とりわけ、各実行委員会で実務を担当された方々のご苦勞様は大変なものだったと察します。海外からの参加者にたいしてもほとんど充分なもてなしができませんでした。二六〇人もの参加者は想像を絶するもので、大部屋の畳にゴロ寝というのはざら、風呂の入り方すら知らせずほうり出すこともありました。私たちのいたらなさで多大なご迷惑をおかけしたと思います。しかしアジア・太平洋の友人たちと共に、「じゃなかしやば」希望の連合」に向かつて邁進できる土台を共に築くことができた、そのことを確信していただき、私たちのいたらなさを寛恕ください。

PP21八九国際民衆行事は終わりました。しかしPP21が終わったわけではありません。民衆がつくる未来はむしろこれからです。私たちは日本列島で八九年八月に出会い、ともに歩む基礎をつくりました。これからそれぞれの場合の歩みが始まります。しかしその歩みは恐らくこれまでとは異なったものになってゆくはずで、私たちには「水俣宣言」があり、「緊急行動計画」があり、

それを共につくった仲間があります。おなじたましいが出来上がりつつあります。「希望の連合」「じゃなかしやば」に向かつての第一歩がP P 21八九国際民衆行事だったのです。

本報告書刊行にあたって

すべての行事に参加した人は誰もいません。それは物理的に不可能だったからです。そこでとりあえずここに全体の流れをつかんでいただくためにこの報告書を刊行します。おそらく各実行委員会でも報告書刊行の計画が進んでいることと思います。それらすべてを合わせて報告書を作ることとはほとんど不可能です。何万時間もの会議があったからです。この報告書は、各会議の主要な議論、基調報告、宣言、行動計画だけを抜きだしたものです。おそらくまったくのあばら骨だけかも知れませんが、ともかくもP P 21八九国際民衆行事の全体像を把握していただくために刊行したものです。

この報告書とは別に、東京事務局では二冊の一般書の刊行を計画しています。P P 21について社会的に広く知ってもらうためです。いずれ発売されると思いますがそちらもぜひお読みください。また、すでに刊行されている『オールタナティブ討論資料集』(Ⅰ、Ⅱ)もお読み

ください。

本報告書刊行にあたって、御多忙中にもかかわらず御執筆いただいた皆様に深甚なる謝意を表したい。また、面倒な編集作業を引き受けて下さったオールタナティブ委員会編集委員(安藤紀典、白川真澄、堀川禎一の三氏)のご苦勞にも御礼を申し上げたい。ありがとうございます。

一九八九年一〇月一〇日

P P 21全国コーディネーター

村井吉敬

バンガロー
ダンス公演
〈札幌〉8・6

アジアからの出稼ぎ労働者
問題を考える
7/29〈鳥取〉

百姓国際交流会
百姓として考える。農村から発言する
7/29-8/2〈山形県酒田〉

食と農といのちの広場
8/3-7〈新潟〉

世界先住民会議
歴史を担って未来へ向かう
8/7-14〈札幌・二風谷・釧路〉

国際化のなかの管理と人権
くらし・教育・労働から考える
8/4-6〈名古屋〉

稲作経済圏フォーラム'89
8/9-12〈岩手〉
コメの未来とアジア
太平洋地域を考える

アジア・フェスティバル―出会いと交流
8/25-27〈福岡〉
民衆物産展・たべもの博丁・民衆交易見本市
民衆運動交流ゾーン・演劇祭・国際協同組合
見本市・コンサート
出演予定：PETA(フィリピン教育演劇協
会)、カラワシ

PETA公演〈大阪〉
8/18

日消連・IOCU
アジア・太平洋消費者会議
いま私たちが新しい世界をつくる
8/18-21〈大宮〉

朝鮮人強制連
行の足跡を迎
える旅
8/22-30〈韓国・
下関・北九州〉

民衆文化の祭り
ルック・アジア・ウィークエンド
8/12-13〈東京〉

カラワシコンサート
〈宮崎・綾町〉8/18

PETA公演
〈名古屋〉8/15

カラワシコンサート
〈大分・大山町〉8/24

神奈川国際シンポジウム
平和と正義のアジア太平洋をめざして
―軍事・外交・経済
8/17-19〈横浜〉

ODA(政府援助)調査運動報告会
8/14-15〈東京〉

カラワシコンサート
〈福岡・中間〉8/28

PP21まとめとひろがりの広場
結びとる21世紀民衆宣言へ
8/20-24〈水俣〉
ACFOD(発展のためのアジア
文化フォーラム)総会
8/16-18

アジア女性フォーラム
―アジアフェミニズムの地平をひらく
8/11-15〈横浜〉

AWSL
アジア・日本の労働運動の変革をめざして
8/7-14〈東京・大阪〉

アジア・太平洋・琉球孤住民集会
8/16-19〈沖縄〉

8・15共同行動 いま平和を語る 環境・開発・軍事をめくって
反核国共同行動

打ち上げ花火 アジア学生交流会
8/13-14

●報告集（じゃなかしゃば）もくじ

報告集発刊にあたって	□村井吉敬	1
水俣宣言	— 希望の連合	10
ピープルズ・プラン	二十一世紀行動計画	20
農業農民国際交流		26
百姓国際交流会	(山形) □菅野芳秀	27
食と農といのちの広場	(新潟) □棚村博美	32
稲作経済圏フォーラム	'89 (岩手)	36
農民共同声明		39
農民アピール		42
世界先住民民族会議	— 歴史を担って未来へ向かう	45
基調報告	「世界の多数者は先住民族」 □ロペティ・セニトゥリ	51
基調講演	「アイヌ民族の歴史」 □萱野 茂	57
アイヌモシリ	(北海道) 宣言	67
アイヌの代表による	アイヌモシリ宣言	70
私たちの宣言	— 多民族共生を願う日本人の立場から	72
決議		74
兄ウタリアンを偲んで	□成田得平	84
アジア・日本の労働運動の変革をめざして		85
労働者国際会議の決議		85
AWSL第四回総会の確認について	□渡辺 勉	92
このままではいけない管理と人権	□福家洋介	94
アジア女性フォーラム	— 四つのPとたたかうアジアフェミニズム	99
Patriarchy (家父長制) ・ Pollution (公害)	□加地永都子	107
アジア学生交流会	— 打ち上げ花火 '89	110
八・一五東京共同行動	□川崎 哲	110
いま、平和を語る	— 環境・開発・軍事をめぐる	112
反靖国共同行動	112	113
天皇報道に関する緊急声明		115
天安門の虐殺についての声明		118
アジア・太平洋・琉球孤住民交流集会	□太田武二	119
アピール		119

神奈川国際シンポジウム——平和と正義のアジア太平洋をめざして□北沢洋子

神奈川宣言

神奈川集会アピール

「草の根援助」の憲章

アジア太平洋消費者会議——いま私たちが世界を変える□水原博子

アジア太平洋消費者会議宣言

私たちの行動計画

ACFOD（発展のためのアジア文化フォーラム）第六回総会□大橋成子

強制連行の足跡をたどる旅□村田 久

アジアン・フェスティバル□安藤栄雄

調査運動□金子文夫

海外進出企業調査□金子文夫

ODA調査□佐竹庸子

ODAに関する市民憲章

アジアからの出稼ぎ労働者調査□門川淑子

アクション・リサーチは出会いと解放の場になったか？□越田清和

文化の工房□花崎 晶

大阪にやってきたベタ□小森 恵

カラワン、九州に行く□木戸 宏

水俣総括会議——希望の連合への出発□武藤一羊

基調報告□武藤一羊

一 人間と自然——破壊から調和へ□中村尚司

二 抑圧からの解放——新しい社会と文化をつくる□内海愛子

三 強者の支配をくずす——国家を変える、国際関係を変える□菅 孝行

四 経済をとりもどす——モノとモノとの関係からひととひととの関係へ□大野和興

五 共同の未来へ——民衆のたましい、民衆の連帯□埴野佳子

《友愛のうた》元気をだそう——おお、じやなかしゃば 詞・曲／高橋 彰

海外各地からの参加者

●事務局員末記□井上礼子